

平成二八年八月二七日(土)〜九月二八日(水)

洋画家

菅野矢一展

— 没後二五年・巴里からの道程 —

ギャラリートーク

9月11日(日)午後2時〜

※申込不要、直接会場へ



致道博物館

〒987-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199

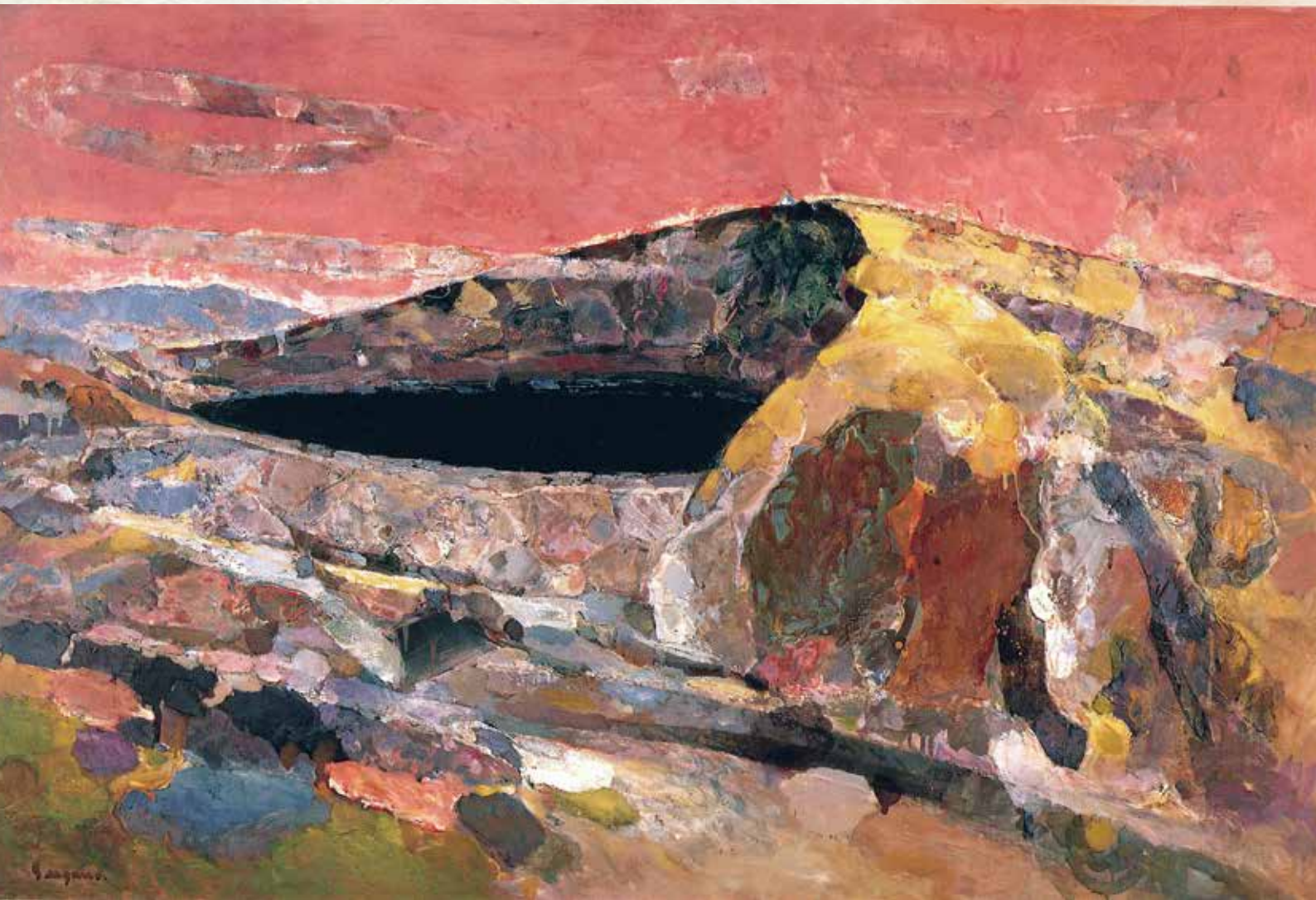
開館時間 午前9時〜午後5時(入館は午後4時30分まで) ※会期中無休
入館料 一般700円/高大生380円/小中生280円(20名以上で団体割引有)
主催 公益財団法人 致道博物館
共催 山形県・公益財団法人山形県生涯学習文化財団・鶴岡市教育委員会

昭和28年、巴里へ…

険しい画道へ、歩み出す

没後25年 洋画家

菅野矢一展



火口湖 (山形県立博物館所蔵)

出品目録

No.	作品名	制作年	大きさ	出品歴	所蔵者
【人物】					
1	花と少女	昭和26年(1951)	F30		致道博物館
2	裸婦	昭和28年(1953)	P20		致道博物館
3	裸婦	昭和29年(1954)	F20		山形美術館
4	裸婦デッサン	昭和28年(1953)頃	63×48		天童市美術館
5	裸婦	昭和29年(1954)	72×40		天童市美術館
6	裸婦デッサン	昭和28年(1953)頃	63×48		天童市美術館
7	モンパルナスの娘	昭和29年(1954)	F10	第16回連袖会展	個人蔵
8	赤いコート	昭和29年(1954)	P50	第16回一水会展 会員優賞	山形美術館
9	ある画友	昭和29年(1954)	P40	第16回一水会展 会員優賞	山形美術館
【静物】					
10	卓上静物	昭和33年(1958)頃	M12		個人蔵
【風景】					
11	島(飛鳥)	昭和35年(1960)頃	M12		致道博物館
12	岬の夕	昭和37年(1962)	F80	第5回日展 菊花賞	山形美術館
13	火口湖	昭和39年(1964)	P80	第26回一水会展	山形県立博物館
14	落日	昭和40年(1965)	P80	第27回一水会展	山形美術館
15	月夜の港	昭和40年(1965)代	F30		致道博物館
16	島へ	昭和41年(1966)	P80	第28回一水会展	山形美術館
17	暮雪	昭和52年(1977)	P50		天童市美術館(保管)
18	陽はまた昇る	昭和52年(1977)	P120	改組第9回日展	山形美術館
19	霧笛	昭和53年(1978)	P120	第40回一水会展	山形美術館
20	驟雨	昭和54年(1979)	P120	第41回一水会展	致道博物館
21	霧の岬	昭和55年(1980)	P120	第12回日展	山形美術館
22	くるゝ蔵王	昭和56年(1981)	P120	第13回日展 日本芸術院賞	山形市
23	長江暮色	昭和56年(1981)	P120	第43回一水会展	天童市美術館(保管)
24	湿原にて	昭和57年(1982)	P120	第14回日展	山形美術館
25	港の灯	昭和60年(1985)	P120	第47回一水会展	山形県生涯学習文化財団(遊学館)

山形市出身の洋画家菅野矢一(1907-1991)が逝去して、今年には25年という節目の年にあたります。菅野は少年時代から独学で絵を描き、29歳のとき文部省美術展覧会に「黒牛」が初入選、翌年本格的な画家活動を志し安井曾太郎に師事しました。以後、一水会・日展で活躍して数々の受賞を重ね、昭和57年に「くるゝ蔵王」で日本芸術院賞を受賞し、79歳で山形の美術家では初めて日本芸術院会員に選出されました。

菅野の画風が大きく変化したのは、日本がまだ戦後の復興期にあった昭和28年のパリ留学が契機となります。人物から風景へと比重が移り、雄大な自然を主題としています。無駄な要素をそぎ落とした独自の描法を確立し、高い評価を得ました。本展では、パリ留学時代から晩年までの作品より25点をご紹介します。苦難を乗り越え試行錯誤しながら到達した画境、菅野芸術が芽吹き花開くまでの道程を感じていただければ幸いです。



致道博物館 交通案内

- JR鶴岡駅より
バス10分
「致道博物館前」
下車徒歩2分
- 山形自動車道
鶴岡I.C.より
車で5分
- 庄内空港より
車で20分

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18

TEL:0235-22-1199 FAX:0235-22-3531

http://www.chido.jp/ E-mail:chido@axel.ocn.ne.jp